

施設紹介

完全独立型救急医療施設

野口 照義*

はじめに

救急医療施設は、軽症、重症を問わず全ての救急患者を受け付ける救急施設と、疾病の重症度と施設の機能により階層別化された一次（初期）救急施設、二次救急施設、三次救急施設あるいは救命救急センターなどに大別される。他方それぞれの各救急施設は、病院の一部門として機能してい

る病院併設型と、救急患者のみを対象として独立した医療施設の独立型に分けることができる。欧米諸国をはじめ本邦の救急施設の殆んど全てが上述の併設型であるが、千葉県救急医療センターは数少ない独立型の救急施設で、通常の病院や病院併設型の救急部門とは多少趣きを異にしている。

設立の主旨と施設の概略

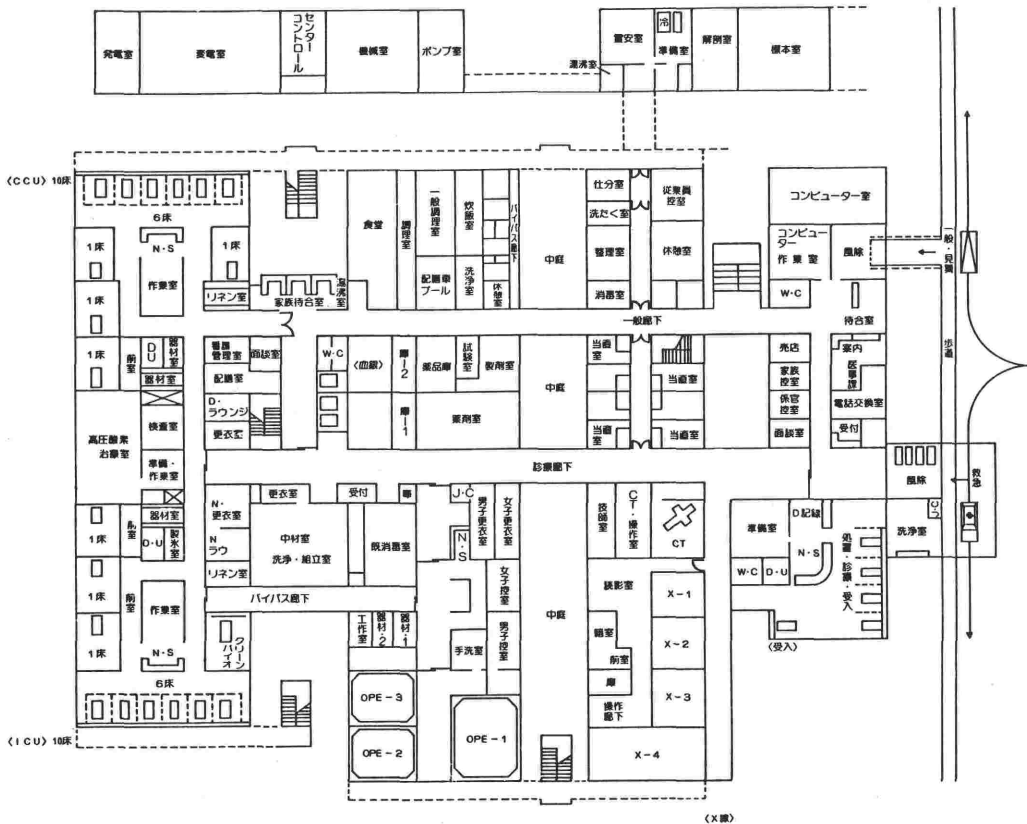


図1 本館1階平面図

*千葉県救急医療センターセンター長

(図1)

一階診療廊下側には、患者洗浄室、診察処置室、放射線診断部門（CT スキャナー、脳心血管撮影装置など）、手術部門（3手術室）、中央滅菌材料室、薬剤部門、血液銀行、ICU（10床）、高圧酸素治療室、CCU（10床）などがあり、一般廊下側には、医事事務室、家族面談室（家族に患者の病状を説明する部室）、控室、売店、コンピューター室、厨房、食堂、当直室などが設置されている。

二階は、3単位より成る病棟（80床）、検査部門（血液一般検査、細菌、病理、生理機能検査、RI など）、フォトセンター、家族面談室のほか病院管理部門の各部室がある。（図2）センター全体としては、ICU、CCU 各10床、病棟80床計100床であるが、各部門特に病棟個室（18床）などに余裕をもたせ、災害時の傷病者多数発生にも可成りの対応が可能である。別棟には、霊安室、病理解剖室、標本室、機械室、自家発電室などがある。

患者の搬送設備としては、救命救急処置に必要な各種の機器装置を搭載し、医師、看護婦の同乗出来るドクターズカーのほか、ヘリコプターによる患者空輸のためのヘリポートもセンター近くに設置されている。

職員配置と運営の実態

職員定数は、医師40名（うち10名は研修医）、薬剤師9名、検査技師15名、放射線技師11名、高圧酸素治療技師2名、看護婦150名、医療助手16名、事務系（栄養関係12名を含む）41名の総数284名であるが、現在医師の30名（研修医を含む）以外は全職種定数通りで実働総数274名である。24時間診療体制確保のためには、各部門に常時職員を配置しなければならない。夜間、休日の各部門の勤務体系は、三交代制の看護部門以外は当直制を採用している。医師は内科系1名、外科系4名計5名の当直に加えて、内科系、外科系にそれぞれ2名の家庭待機のオンコールを置いている。看護婦は婦長1名を含めて20名、薬剤師、放射線技師各1名、検査技師、事務職員、守衛、電気ポイラー技師各2名合計36名の夜間職員を配置して対処している。

外来診療は行わず、一次あるいは二次救急医療施設より救急車で患者が搬入されてくる。

患者到着と同時に院内放送用チャイムが3回放

送され、待構えていた医師、看護婦、検査、放射線の各技師、薬剤師などが受け入れ処置室に集合し、初期治療と同時に確定診断がなされる。

医師は診療科に関係なく全員が毎朝8時30分にICU内の一室に集まり、当直医より来院患者についての診断や治療の説明を受ける。

次いでICU、CCU各患者についての経過と病態や治療についての説明があり、これに関して討論を行ない、続いてICU、CCUの回診をする。その後内科系、脳外科系、外科系の医師団がそれぞれの病棟での回診、検査、包交、処置などを行う。この間緊急手術や待機手術があれば必要に応じて実施する。

過去5年間の診療実績

開設以来昭和60年3月末までの満5年弱の期間に搬入された新患件数は、9,553件（1日平均5.3件）で、その61.5%の5,871件（1日平均3.3件）が入院した。当センター退院後変調を訴えたり、特種検査のため直接来院した再来件数は14,354件で、新患再来総数は23,907件、1日平均13.3件の診療が実施された。

新患の約78%は一次、二次医療施設からの紹介、すなわち間接搬入で、残りの22%が救急隊や家族が直接搬入した症例であった。搬入件数の69%は救急車で来院し、残り31%は自家用車またはタクシーで搬入された。

曜日別搬入状況では、土曜日が最も多く平均6.1件、休日5.8件、平日5.0件で土曜日、休日が平日より有意に多い。時間帯別では、67%が通常の勤務時間外に搬入され、この約40%は午後10時以後翌日朝5時までの時間帯に来院している。

搬入時仮死（DOA:dead on arrival）は、新患の1.2%（117件）で、直ちに心肺蘇生を試みたが、その93%は60分以内に死亡した。入院患者を疾患別にみると表のように外傷が最も多く、脳神経外科系、循環器系、一般外科系の順になっている。外傷では、多発性外傷が多く、脳外科、一般外科、胸部外科、整形外科、循環器科、麻酔科など数人の医師団による治療が必要とされる。

手術は2,978件に実施され、搬入直後の緊急手術は全件数の60%であり、この77%は時間外に執刀されている。患者の平均入院日数は19日で、平均病床利用率は75%である。常時空床確保という

表 疾患別入院総件数と死亡率

疾患名	件数	百分率	死亡件数	死亡率	疾患名	件数	百分率	死亡件数	死亡率
外傷	1,784	28.7	248	14.1	敗血症	33	0.5	5	15.2
脳内出血	584	9.4	156	27.1	心停止後	32	0.5	15	46.9
破裂脳動脈瘤・蛛網膜下出血	515	8.3	168	33.3	水頭症	31	0.5		
心筋梗塞	369	5.9	79	21.8	自然気胸	30	0.5		
脳梗塞	197	3.2	35	18.1	高血圧症	29	0.5		
消化管出血	164	2.6	20	12.3	異物(気管消化管)	28	0.5		
心不全	152	2.4	22	14.8	急性脾炎	27	0.4	4	14.8
イレウス	150	2.4	11	7.4	子宮外妊娠	25	0.4		
中毒	151	2.4	24	15.9	溺水	19	0.3	5	26.3
消化管穿孔	117	1.9	3	2.6	尿路結石	18	0.3		
急性呼吸不全・喘息発作	99	1.6	15	15.5	肝炎(激症急性)	16	0.3	5	31.3
痙れん発作	101	1.6	1	1.0	胸膜炎	15	0.2		
腹膜炎 (虫垂穿孔による)	95	1.5			心嚢炎	15	0.2		
硬膜下血腫	88	1.4	3	3.4	骨盤腹膜炎(婦人科)	14	0.2		
アダムストーク症候群	86	1.4	3	3.5	急性循環不全	14	0.2	3	21.4
熱傷	85	1.4	27	33.8	D I C	12	0.2	12	100.0
髄膜炎	74	1.2	11	15.1	メニエル症候群	12	0.2		
虚血性心疾患	64	1.0			急性腎不全	8	0.1	4	50.0
発作性頻脈	60	1.0			熱中症	5	0.1	2	40.0
急性腹症	71	1.1	1	1.4	薬疹	6	0.1		
代謝性昏睡	71	1.1	7	10.0	破傷風	3	0.1	1	33.3
一過性脳虚血	57	0.9			筋無力症	3	0.1		
肺炎	56	0.9	8	14.6	異型輸血	2	0.1		
急性動脈閉塞	50	0.8	7	14.0	卵巣嚢腫茎捻転	2	0.1		
解離性大動脈瘤・大動脈瘤	49	0.8	15	30.6	その他	148	2.4	8	5.4
急性胆嚢炎	45	0.7	2	4.4	検査	304	4.9	1	0.3
意識障害	36	0.6	5	13.9	合計	6,221	100.0	937	15.2

(55.4.23~60.3.31)

経営上の不利な面に加えて、外来診療を行わず、24時間患者受け入れに対応する人件費など運営費の増大には苦慮している。

おわりに

完全独立型の三次救急医療施設としての千葉県救急医療センターについて、その施設、運営、実績の概略を述べてみました。